

湯梨浜中学校だより



湯梨浜町立湯梨浜中学校 校長 武田基資（令和4年10月20日）

三智創造

ことばの力

仏教宗派の一つ、曹洞宗の数あるお経の中に、「修証義」があります。法要でよく唱えられるお経です。その中で「愛語(あいご)」について書かれた次のような一節があります。

『～向かい愛語を聞くは面を喜ばしめ、心を楽しくす、向かわずして愛語を聞くは肝に銘じ魂に銘ず～』

愛語とは、穏やかで優しい言葉のことで、幼い子に接するように、相手のことを大切に思い「守ってあげたい」という気持ちを込めて語るのが愛語のもとだそうです。善いことをしたら褒めて伸ばし、悪いことをしたら憐れみの心をもって教えます。愛語は敵対する人の心を鎮め、争う人々を仲直りさせることもでき、面と向かって愛語を聞けば言われた人は嬉しい気持ちで笑顔になり、また人づてに愛語を聞けば言われた人はその優しさに感動すると書かれています。そして、愛語には不可能を可能にする力、世の中を動かす力があるこ

とを学びなさいとも書かれています。

一方、言葉は凶器にもなります。人をだましたり傷つけたり、争いのもとになったり、人の命を奪うことすらあります。凶器とまではいかななくても周囲の人を不快にさせる言葉を発してしまうことはありがちです。それも無意識に発した言葉が元になったということがけっこうあるようです。

特にSNSなどネット上の顔の見えないやり取りでは、ついつい気遣いのない言葉になりがちです。ネット上の書き込みがきっかけで友達との関係を壊してしまった人もいます。きっと、その関係の修復にも愛語が役に立つことでしょう。

せつかく人類が長い歴史の中で身につけた言葉ですから、「凶器」ではなく「愛語」となるような使い方をしたいものです。日頃の心がけとともに、ときどき立ち止まって自分の言葉を見直すことも大切でしょう。

学習支援ボランティアに感謝

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取り組みの一環で、地域の方に学習支援ボランティアとしてご協力いただいています。先月末から1年生の家庭科の授業で「衣食住の生活」の布を用いた製作活動でのミシン実習の時間に、来校可能な方に来ていただき、見守りをしていただきました。授業者以外にも大人がかかわることで、生徒にとっては質問できる機会が増え作業も早く進み、励ましの言葉をかけてもらって意欲も高まり、とても助かったようです。時間をつくってご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



湯梨浜町人権教育推進大会(10/16)より

毎年開催されているこの大会では、記念講演のほか、人権標語の表彰と中学生の意見発表があります。今年は本校3年生が「助け合える社会」と題して意見発表を行いました。ヘアドネーションで髪の毛を提供した体験から、人と人が助け合うことの意味や大きな可能性について気づいたことを述べました。また、人権標語の表彰では、本校から6作品が入賞し、最優秀作品には本校1年生の『あいさつで つながる思い 広がる笑顔』が選ばれました。今後作成される資料や掲示物などに掲載され啓発に使われます。